

令和5年度 星雲工房（就労継続支援B型）事業報告

◀ 施設の概要 ▶

◇ 名称及び所在地

『星雲工房』 岩手県大船渡市立根町字下欠125番地17

TEL 0192(21)1818 FAX 0192(21)1819

◇ 事業種別

就労継続支援B型事業所

◇ 設 備

敷地面積 1,833 m² 床面積 392.01 m² (鉄筋コンクリート造平屋建)

事務室・相談室・静養室・食堂兼娯楽室・男女更衣室・作業室

男女便所・倉庫・洗面所・調理室・屋外倉庫・シャワー室

◇ 定員 30名

◇ 沿革

平成11年 4月 1日 精神障害者通所授産施設「星雲工房」として開所。定員20名。

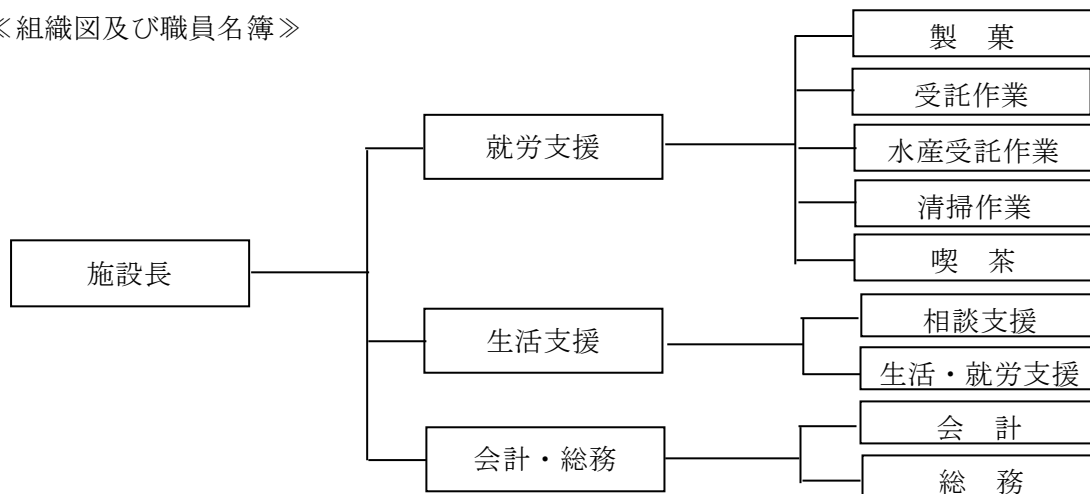
平成18年10月 1日 就労継続支援B型事業所指定（朋友館と一体で事業開始）

平成20年 4月 1日 定員を30名に増員

平成20年11月20日 喫茶「夢茶房」を南三陸ショッピングセンターサンリア内に移転開設

1. 職員の状況

◀ 組織図及び職員名簿 ▶



◀ 職員名簿 ▶

職 名	氏 名	職 名	氏 名
施設長	吉田 展泰	サービス管理責任者 (主任)	金野 千知
職業指導員 (衛生管理責任者)	佐々木 利光		
生活支援員	佐藤 睦美	目標工賃達成指導員 (衛生管理責任者・係長)	平野 さつき
生活支援員	金野 凌太郎	職業指導員補助	檜山 博己
職業指導員	畠山 一樹	職業指導員(契約)	木下 公喜

2. 行事等報告

(1) 行事

月	日	内 容
7	22	バスハイク（イオン釜石店）
・令和5年4月～令和6年3月 食事会（施設内・夢茶房での会食）		

(2) 諸会議・施設内研修

月	日	内 容	出席者
5	19	（支援学校）気仙圏域ネットワーク会議	吉田
5	20	（内部研修）傾聴技術について	全員
6	27	地域密着型介護老人福祉施設「陸前高田」運営推進会議	吉田
8	3	第4次大船渡市障がい福祉計画策定のためのワークショップ	吉田
8	24	令和5年度 第1回気仙地域障がい者自立支援協議会	吉田
9	7	気仙圏域高次脳機能障がい者支援連絡協議会	吉田
10	21	（施設内虐待防止研修）アンコンシャスバイアスについて	全員
11	22	大船渡市障がい福祉計画部会	吉田
12	23	（虐待防止委員会）支援業務における虐待防止に係るモニタリング	全員
1	20	（内部研修）ノーマライゼーションに基づいた支援について	全員
2	5	気仙地域障がい者自立支援協議会運営会議	吉田
3	20	（虐待防止委員会）職員のメンタルヘルスチェックについて	全員
3	21	令和5年度 第2回気仙地域障がい者自立支援協議会	吉田
<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、工賃会議、ケース会議については毎月開催。 ・虐待防止委員会に係る会議・打ち合わせについては、平野が出席 ・衛生推進委員会に係る会議・打ち合わせについては、佐藤が出席。 ・自立支援協議会就労部会（毎月開催）は、金野（凌）が出席。 			

(3) 施設外研修

月	日	内 容	場所	参加者
6	15	令和5年度 ナイスハートバザール販売促進研修会	WEB	金野（千） 吉田
7	3	大船渡市ふるさと納税掲載事業者募集説明会	大船渡 市内	吉田
8	24～ 25	令和5年度 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	盛岡市	金野（凌）
9	11	こころの出前講座支援者向け研修会	大船渡 市内	金野（凌） 佐藤
9	25	衛生管理セミナー	大船渡 市内	平野
9	20	大船渡市ふるさと納税掲載事業者対策セミナー	大船渡 市内	吉田
10	6	令和5年度 さんりく・こすもす研修会	大船渡 市内	吉田

11	17	令和5年度 サービス管理責任者等実践研修	盛岡市	佐藤
12	2	令和5年度 社会福祉法人大洋会 虐待防止研修会	WEB	全員
1	17	令和5年度 気仙地域障がい者自立支援協議会就労部会研修会	大船渡市 市内	金野(凌) 吉田
2	6	大船渡市ふるさと納税掲載事業者対策セミナー	大船渡市 市内	吉田
3	1	令和5年度 工賃引上げ支援セミナー	WEB	金野(千) 金野(凌) 木下・平野
3	3	令和5年度 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業研修会	大船渡市 市内	吉田 金野(凌)
3	15	令和5年度 工賃引上げ支援セミナー	WEB	佐々木 佐藤 畠山 檜山

3. 実習・体験利用・見学受け入れ状況

支援学校中学部進路見学会、支援学校中学部就労体験（インターシップ）、利用希望者の見学（計7名）、体験利用（計4名）を随時受け入れた。また、精神保健福祉士養成に係る実習について、岩手県立大学（通学）より1名、東北文化学園大学（通学）より1名、東北福祉大学（通信制）より1名、盛岡医療福祉スポーツ専門学校（通信制）より1名の受け入れを行った。

4. 利用者の状況

登録者数 41名（令和6年3月末現在）

退所者 3名（退所理由：転居 1名 体調不良による退所 1名 逝去 1名）

新規登録者 4名

(1) 市町村別

	大船渡市	陸前高田市	住田町	計
男	21	2	1	24
女	12	3	2	17
計	33	5	3	41

(2) 年齢別

18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
1	6	12	6	10	6	41

(3) 月別利用状況

平成5年度 月平均利用者数 30.5人

月	延べ人数	月平均利用数	月	延べ人数	月平均利用数
4月	669	30.4	10月	731	31.7
5月	699	30.3	11月	702	31.9
6月	698	31.7	12月	713	31.0
7月	682	29.6	1月	668	29.0
8月	690	30.0	2月	633	30.1
9月	681	30.9	3月	694	30.1

(4) 利用者日課

9 : 1 0	到着・朝礼	1 3 : 0 0	作 業
9 : 1 5	作 業	1 4 : 1 5	休 憩
1 0 : 3 0	休 憩	1 4 : 3 0	作 業
1 0 : 4 5	作 業	1 5 : 1 5	清 掃
1 2 : 0 0	昼 食	1 5 : 3 0	終礼・退出

5. 利用者支援

(1) 健康管理・感染症対策

利用者の健康管理については、医療機関、訪問看護事業所、居宅介護事業所（通院同行・家事援助）と連携し、治療や服薬管理、医師・看護師からの病状確認、通院同行等を行った。

今年度については、食事管理に課題のある利用者、精神症状の変化が大きい利用者がいたため各種機関との連携を強化しつつ、情報共有や支援調整などを図っていった。

感染症対策については、検温、健康状態の確認、抗原検査の実施などの基本的な予防対策を徹底し、感染症予防、早期発見に努めてきた。それらにより、感染拡大、業務休止をすることなく、安定した衛生・体調管理や業務継続ができています。

(2) 作業指導・就労支援

利用者本人の特性等に応じ、作業環境の整備、伝え方など工夫しながら、日々の作業指導を行っていった。精神障がい者については、日々の体調変化、慢性的な陰性症状があるため日々の体調、作業速度や集中力などに応じた作業配置を行っていった。また、一般就労を希望する利用者が複数名いたため、就業・生活支援センターと連携し、一般就労に関する相談、センター登録等に向けた各種準備などを進めていった。

(3) 生活支援、相談全般・家族との連絡等

サービス管理責任者と生活支援員が中心となり、医療、金銭、生活面など、他機関と連携を図りながら支援した。今年度については、生活面（家事・食事管理、金銭管理など）で課題のある利用者が複数名いたため、居宅介護等の障がい福祉サービス事業所や社会福祉協議会の日常生活自立支援事業など各種機関と連携し、相談対応や生活支援を進めていった。

利用者家族に対しては、利用者の健康管理や生活支援に関する働きかけを行い、利用者の健康維持や生活支援への理解や協力が得られるよう努めてきた。相談支援専門員や関係機関（居宅介護、訪問看護事業所等）と連携し、利用者本人や家族の意見等を調整しつつ、スムーズに支援が実施できるよう努めていった。

6. 就労支援の概況

(1) 製菓

新型コロナウイルス感染の影響が残り、昨年度の同様、受託元の経営不振が見られ、受注量が減少している。また、世界各国の情勢による影響も続いており、小麦粉など原材料がさらに高騰し、仕入支出の増額につながっている。そのため、昨年度と比べ部門収入が減少した。

受注量、部門収入の低下が見られたが、販売機会については、気仙管内の事業所・企業への訪問販売、委託販売等の他、大船渡市ふるさと納税返礼品に係る製菓商品の出品機会を得ることができた。まだ受注量は少ないものの、概ね継続して注文を受けることができています。また、今年度、大型受注が複数あり、支援団体スイートハートプロジェクトの紹介により、医薬品会社 ブリストルマイヤーズスクイブ社のクリスマス用ギフトとして、みそクッキーの注文。いわて生協より、みそパンの注文を受けることができた。

受注量の減少、原材料高騰の影響は、今後も続くことが予想される。そのため、気仙管内だけでなく、県内外での販売機会について積極的に検討し開拓していくこと。原材料の仕入量や価格を吟味し、必要量を確保しつつ、できるだけ支出を抑えられるよう努めていきたい。

(2) 受託作業

新型コロナウイルス感染症5類移行などの影響により、製函作業やその他受注作業の受注量増加が見られたものの、今年度受注がなかった作業（パンフレット封入作業）もあり、総じて部門収入の減少となっている。

水産受注作業については、今年度においても、年間を通し、概ね途切れることなく作業を行うことができている。しかし、令和6年2月下旬から3月にかけて、気候変動等による、わかめの発育不良により、資材入荷が滞り、作業がやや途切れがちとなった。わかめ芯抜き作業を中心に行ってきたが、12月下旬より、試行的に、わかめ茎切りの受注作業も開始した。作業体験を重ね、概ね利用者も作業対応できるようになったため、来年度以降、わかめ茎切り作業も取り入れていきたいと考えている。

一部受注作業について、コロナ禍前の水準に戻りつつあるが、受注元の経営状況やその他の影響により、受注量や収入の変動が出やすい状況である。上記、わかめ茎切り作業については、通年作業が可能とのことであったため、安定した受注量や収入につなげられる作業の新規開拓に努めてきた。

(3) 清掃作業

陸前高田市にある高齢者施設内の清掃作業を行ってきた。概ね年間を通し作業を行うことができた。新型コロナウイルス感染症5類移行や感染予防対策の徹底により、今年度については、概ね休止することなく、作業継続ができた。5名程度の利用者が作業に従事し、身体面・精神面で作業に配慮が必要な方もいたが、職員の見守りや助言などにより、安全に落ち着いて作業を行うことができた。陸前高田市にある県営住宅公共スペースの消毒作業については、今年度より終了となっている。一部作業が終了となったが、今後も上記清掃作業が継続できるよう努めていきたい。

(4) 喫茶

新型コロナウイルス感染症や、店舗のあるショッピングセンターへの来店者減少が影響し、喫茶店舗への来店者も減少傾向が続いた。しかし、今年度については、夏祭りなど、各種イベントへの（臨時）出店を再開できたこと。釜石祥雲支援学校の課外学習など、各種団体利用が増加したこと。施設行事などで、デリバリーの利用や利用者の夢茶房利用が増加したことで、収入増加となった。

喫茶部門については、利用客の減少、経営不振などの理由により、終了する予定であるが、終了前まで、店舗への集客、デリバリー・テイクアウト対応について引き続き取り組んでいきたい。

7. 収入・工賃実績

単位：円

	収入額	工賃支給総額	部門別内訳		
			受託部門他	製菓部門	喫茶部門
令和3年度	14,333,481	7,668,100	4,644,519	7,165,512	2,523,450
令和4年度	14,275,064	6,971,600	5,828,830	6,255,804	2,200,590
令和5年度	<u>14,199,779</u>	<u>6,242,700</u>	4,030,990	5,959,839	4,208,950

平均支給額 17,056円/月

8. 防災状況

(1) 自衛消防隊

隊長	係	任 務	担 当
施設長	通報連絡係	消防署及び関係機関への通報連絡	畠山
	消 火 係	初期消火活動	金野（千）・木下
	避難誘導係	利用者の避難誘導	金野（凌）・檜山
	館内警備係	館内の見回り、避難状況の確認	平野
	救 護 係	負傷者の救護、避難誘導係の補助	佐藤

(2) 訓練実施状況

実施日時	令和5年11月28日 9:15～	訓練種別	避難・消火・通報訓練
内 容	施設製菓調理室から出火の想定し訓練を実施。火災報知機を鳴動させ、出火場所を施設内の利用者に知らせる。消火係は初期消火にあたり、誘導係は作業中の利用者を作業室、玄関から避難させ、避難場所としている施設前の駐車場で人数確認、点呼を行う。		
実施日時	令和5年3月28日 9:15～	訓練種別	避難訓練
内 容	宮城県沖を震源とする、震度5強の地震を想定し実施。エリアメールブザーを放送。机に下にもぐるなど安全を確保したうえで、速やかに誘導係は利用者を作業室、玄関から避難させ、避難場所としている施設前の駐車場で人数確認、点呼を行う。		

9. 苦情受付状況 0件（令和6年3月31日現在）

10. まとめ

コロナウイルス感染症の5類移行など、感染による影響は少なくなったものの、世界情勢の悪化などの影響が、受注元の経営不振や原材料の高騰へつながり、受注量の低下や収入減少につながった。今後、それら影響はしばらく継続すると予想されるため、今後の動向を注視しながら、対応・対策を考えていきたい。まずは、県内外を含めた販路の拡大、材料費支出の節約などに取り組んでいきたい。

今年度、知的障がい者1名、身体障がい者1名、精神障がい者2名の新規利用があった。障がい特性などにより、健康面、生活面、作業面で幅広い対応や配慮が必要となった。昨年度は、精神障がい者への理解や対応が課題となったが、それに加え、知的障がい、身体障がいへの理解や対応なども求められた。あらためて、各障がいについて理解し、障がい特性に合わせた支援技術を幅広く学んでいく必要がある。施設内外で学習機会が作り、支援場面でそれらの学びを实践できる体制が作れるよう努めていきたい。

また、健康（医療）面、生活面で課題を抱える利用者が複数名いたため、多機関と連携して支援を進める機会も多くあった。職員が支援業務を重ねる中で、連携や協働に対する意識は高まりつつある。意識の向上とともに、各機関が持つ職業観・価値観等の違いにより、多機関との調整の難しさも感じているようである。それら、調整の難しさや困難さについて、相談やスーパーバイズできる体制づくりが必要であり、整備ができるよう努めていきたい。

コロナウイルス感染症など、感染症について、今後も感染拡大の可能性は考えられる。これからも感染予防対策の徹底、BCP（事業継続計画）の見直しや訓練などに取り組んでいきたい。